

GCI Global View

2010年7月12日

【目次】

- 激動期の資産運用業務（オルタナティブ投資）についての考察 P.1
- Global Markets
 - 1.オーバービュー P.4

【連絡先】

株式会社 GCI アセット・マネジメント

○住所：〒101 - 0065 東京都千代田区西神田 3 - 8 - 1

○電話番号： 03 - 3556 - 5540(代表)

○電子メール： administration@gci.jp

金融商品取引業者

関東財務局長(金商) 第 436 号

日本証券投資顧問業協会 加入

当資料は、株式会社 GCI アセット・マネジメントが情報提供を目的として作成したもので、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報データに基づき作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、当社が保証するものではありません。当資料における見解は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

巻頭レポート

激動期の資産運用業務（オルタナティブ投資）についての考察

スポーツ・イベント（ワールドカップ、全米女子オープン、大相撲問題）からの教訓

巷では昨日の参議院選挙での民主敗北のニュースでいっぱいです。たしかに「政局」はこれまでも常にマスコミにとって最大の関心事で、経済問題よりもさかれるスペースは大きく報道する側も、される政党、政治家側も「天下分け目の大一番」的感覚を持っています。しかし財界関係者、中でも金融関係者にとっては世界経済の状況、日本経済の行方の方にはるかに大きな関心があり、「日本の舵取りが選挙至上主義の政治家にはたして委ねられるのか」という大いなる疑問を持たざるを得ません。しかし、今日は大上段の議論はさておき、もう少し身近なスポーツ・イベントで最近盛り上がった中で感じたことをお話してみようと思います。

このところビッグ・イベントが目白押しで睡眠不足に陥った方も多かったのではないかと思います。いろいろなイベントを見ながら、運用関係者の性というのか、「W杯で〇〇が勝てばユーロは買われるか」とか、「参議院戦で民主が負ければ株はどうなる」とかすぐ考えてしまうのですが今回は試合を見ながら、相場とは関係なくいろいろと参考になるものがありました。今年度も第2四半期（暦年では第3四半期）に入り、運用する側も投資する側も正念場に入って来ましたが過去の経験からいっても激動期のマーケットで戦い抜くためには目の前の相場だけではなく経済全体、社会全体を俯瞰する視点と冷静さが不可欠ということで、今週のグローバル・ビューは一步相場から距離を置いて直近のスポーツ・イベントから何を学ぶべきか考えてみたいと思います。

ここ1ヶ月日本中を盛り上げてくれたワールドカップもついに今朝延長戦を1対0でオランダを制したスペインの優勝で幕を閉じました。3位決定戦を含む7試合すべての勝者を的中させたパウル君もマリネやパエリアにされることなく静かな暮らしに戻れそうです。3位決定戦の予想ではかなりためらいながら最後はドイツの箱に入ったことから皆接戦を覚悟したということですからその精度は相当なものです。最近運用成績不振のヘッジファンド・マネジャーがパウル君の採用を真剣に検討したという噂もロンドンのパブで流れていたようです。ドイツのメルケル首相はG20の期間中イギリスのキャメロン首相と本会議を出て（2国間会議という名目の）ドイツ/イングランド戦観戦をしていたということから相当のサッカー好きのようで、「ドイツを破ったスペインにはもう支援は行わない」と言ったとか、、、

今回のW杯は、フランス、イタリア等競合国が相次いで予選リーグで敗退するなど波乱があり、また1対0という僅差の試合が多くプレーヤーにもサポーターにもストレスがありました。寝不足と戦いながらも大いに参考となったことは、スペインのパス回しの正確さが常に相手国を上回り、きわどい試合においても常に安定感を感じました。基本にこだわり忠実であったスペインが最後は勝つべくして優勝したように思われます。

一方日本時間今朝まで熱戦が報じられていた全米女子オープンも手に汗握る展

開でした。第1ラウンドが終了した時点で1位タイのイーブン・パーに横峯さくら、1オーバーに諸見里しのぶ、2オーバーに宮里藍、3オーバーに有村智恵と日本選手がたくさん上位に食い込んでいたため連日早朝からの応援にも力がこもりましたが、男子プロでも舌を巻く難コースでの開催であったためさらにスコアを伸ばすことはもちろん維持することも難しく、+6（オーバー）でホールアウトした横峯さくらが10位タイで日本人最高位、12オーバーの有村智恵が29位、13オーバーの宮里藍が31位、14オーバーの諸見里しのぶが34位でした。

藍ちゃんの実力は疑うべきものもないので遠からずこうしたメジャータイトルを手中に収めるものと確信しますが、注目すべきは、優勝したポール・クリーマー（米）、優勝候補の筆頭にあげられ第2ラウンドでは横峯さくらと同じ最終組でスタートしながら最終9オーバー、17位に終わったクリスティ・カー（米）の両選手だと思います。ポール・クリーマーは愛らしい容姿とピンクパンサーのニックネームで有名な全身（クラブ、ボールも）ピンクのいでたちで日本にもファンの多い選手です。ゴルフ・プレーは堅実そのものの基本と定石に忠実なプレーをする人で、果敢にピンを攻めるといよりは安全コースでグリーンにのせ距離の長いパットでも常に1パット圏内に寄せてくるプレーヤーです。今回は右親指の故障、手術から復帰最初の試合で、最初から「難しいコースなので攻めずに守り、パーを念頭に4日間プレーする」と言っていました。時々右手の痛みで顔をしかめながらのラウンドでしたが、結果として4日（72ラウンド）を通して唯一のアンダーパー（-3）で2位に4打差の優勝でした。23歳のクリーマーにとっては初めてのメジャー優勝で日ごろ冷静な彼女が優勝を決めた瞬間には感極まっていた。傷みと初めてのメジャー制覇のプレッシャーからのストレスの中で、冷静にいつもと同じゴルフを続けたのが勝因でしょう。

その逆に自他共に優勝候補筆頭であったにもかかわらず中盤から後半にかけ崩れたのがクリスティ・カーです。すでに2007年の本大会を含め2ケタの優勝経験があり、今期も好調を維持していることから優勝候補の筆頭と考えられていました。自身も「どこまで優勝回数を積み上げられるかが課題」と試合前に語るなど気合に満ちていました。しかしカー選手の場合自身への気合のみならず同じ組の他選手にもプレッシャーを与え、結局自分自身から重圧に押しつぶされたように見えました。ストレスがかかる環境下良い緊張感を保ちながら、いつもの実力を発揮する秘訣のようなものがあるのでしょうか。「日ごろの練習」と言うのは簡単ですが、練習とトレーニングの虫のような有村智恵が「自分の力をまったく出せずに悔しい」と語っていたのが印象的でした。

また横峯さくらのやや変則的とも言えるスイングをアメリカのTV局がさかんに取り上げ、個性的ではあるがインパクトで正しくクラブヘッドがコントロールされたフレッド・カプルスのようなスイングと紹介していたのにも驚きました。フレッド・カプルスはアメリカでも人気の高い実力選手、ほとんど海外では露出のない日本ツアー中心の横峯選手でも興味を持って全国放送が相当時間を割いていた熱心さには関心しました。

注目されつつも盛り上がりには欠けたものとしては大相撲名古屋場所があげられます。NHKの大相撲中継が今回賭博問題を機に中止となったことは、BBC、CNNなど欧米のメディアでも大きく取り上げられていました。しかし、それ以上にモンゴル、中国、韓国、台湾、ブラジルをはじめとした南米諸国にも数多くの視聴者がいることも今回初めて知ることができました。大相撲は、ここ数年国内の新弟子志望者

が減少を続けており（ゼロの年も！）外国人力士のプレゼンスが高まってきていることは周知の事実です。日本で最もウインブルドン化が進んでいるのが国技である大相撲とされています。今回の賭博事件関与力士はこれまでのところすべてが日本人力士とされていますが、これは単に世間知らず、これまでの悪しき慣行といったものに起因するものなのではないでしょうか。地方興行には歴史的に暴力団の関与というのはあったのかもしれませんが、近年のコンプライアンスの高まりから考えればあまりに稚拙であり、その結果として実力ある力士が協会を解雇されたり、まじめに努力する力士達の活躍にも光があたりなかつたりでは報われないように思われます。

力士達、相撲関係者にとってもかつてないほどにストレスとプレッシャーがかかる環境かもしれませんが、また安心して相撲が取り組み応援できる環境が実現することを期待します。

最近のスポーツイベントを見ながら考えたことは、プレッシャーがかかりストレスも高まる中でスポーツ選手はどのように日ごろの実力を発揮することができるのか考えてみました。

基本的に忠実で環境が自分にフォローでも、アゲインストでも冷静沈着なプレーを行える選手ほど、大一番でも実力を発揮できることが明らかのように思われます。ただそこで例外なく言えることは、才能と努力ということももちろんとても重要かと思いますが、もうひとつ重要なことは単なる身体能力の高さではなく、数ある競技種目の中でなぜその種目を選んだのか、またその種目の中でどのような自分の立ち位置（ポジションやプレー・スタイル）をとって来たかに自分なりの確信を持っていること、「これが自分のやりたいこと、やるべきこと」とはっきり認識できている強みもあるのではないかと感じました。

運用の世界では、なかなか自分が他の人よりも適正があるかどうかは証明することも、実感することも難しいように思われます。しかし、少なくともあのスポーツ選手達と同じくらい自分が取り組む対象に真剣に対峙し、また研究し、自分なりの理解と経験を築き上げたいと改めて再認識しました。運用においては結果がすべての見方をされることも多いですが、この難しい環境下において投資家の皆様からも自らにとっても納得的な取組みを真摯に行って生きたいと思えます。

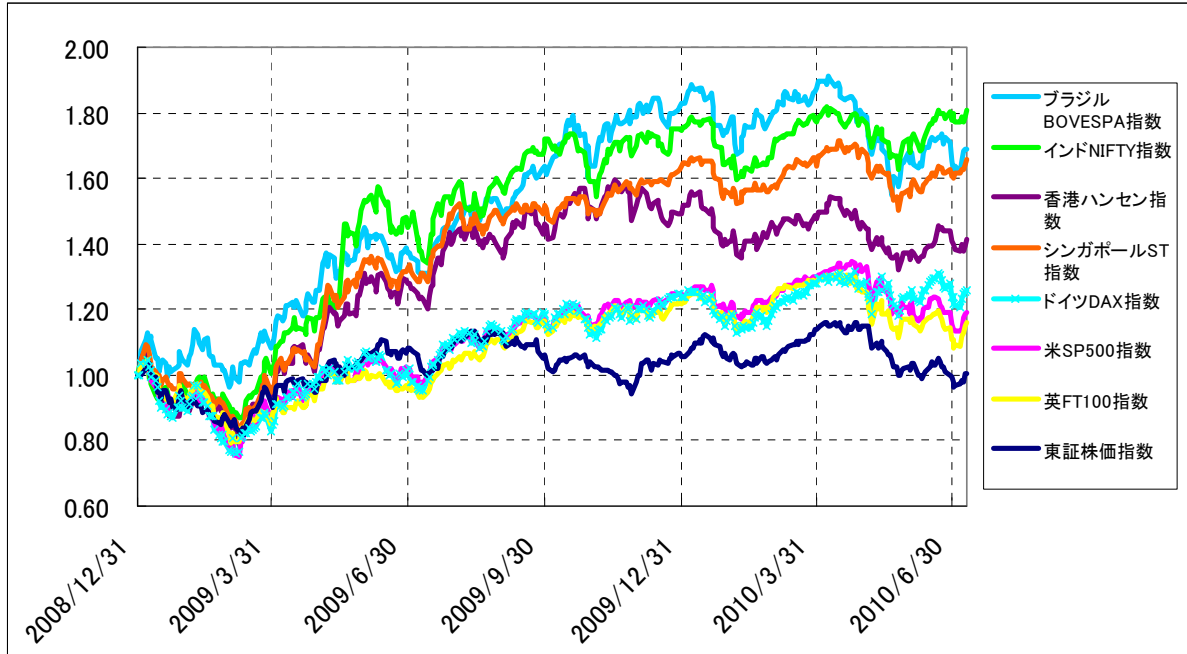
（インベストメント・グループ）

Global Markets (7月5日～7月9日)

1. オーバービュー

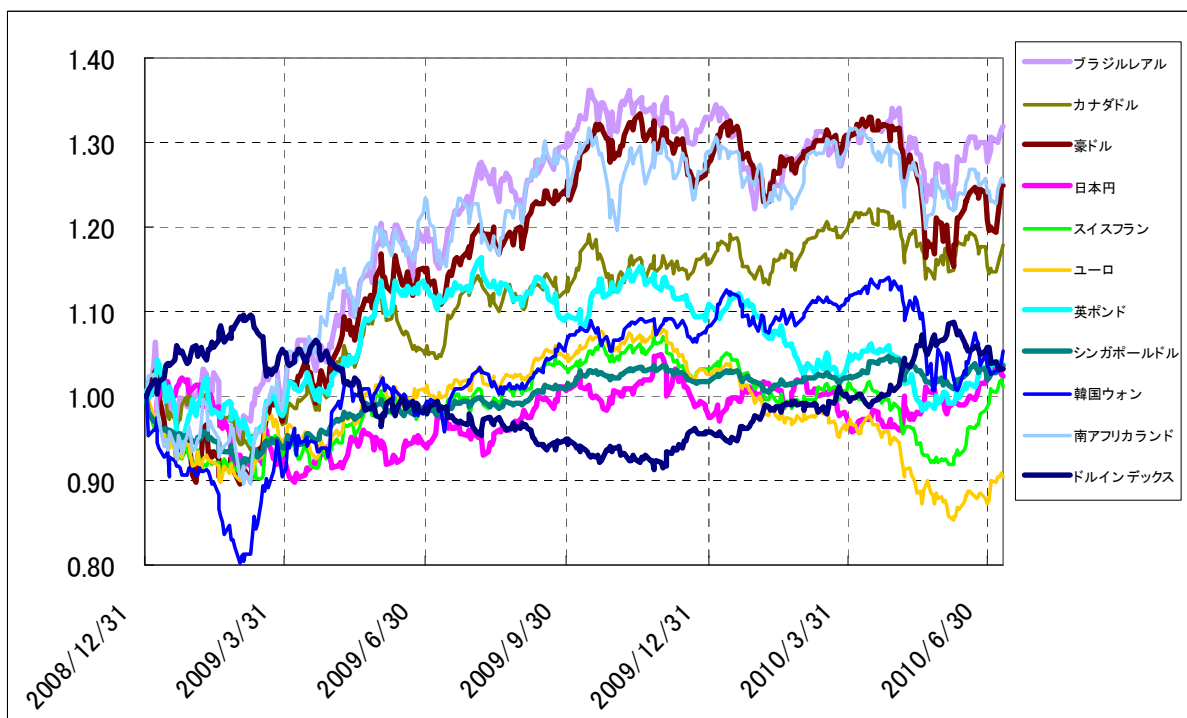
二番底懸念や欧州に対する不安は根強いものの、株式市場はようやく反発。日本では参議院選で与党が過半数を割り込み、不透明感が強まる展開が予想される。

【各国株価インデックスの2008年末からの変化率の推移】

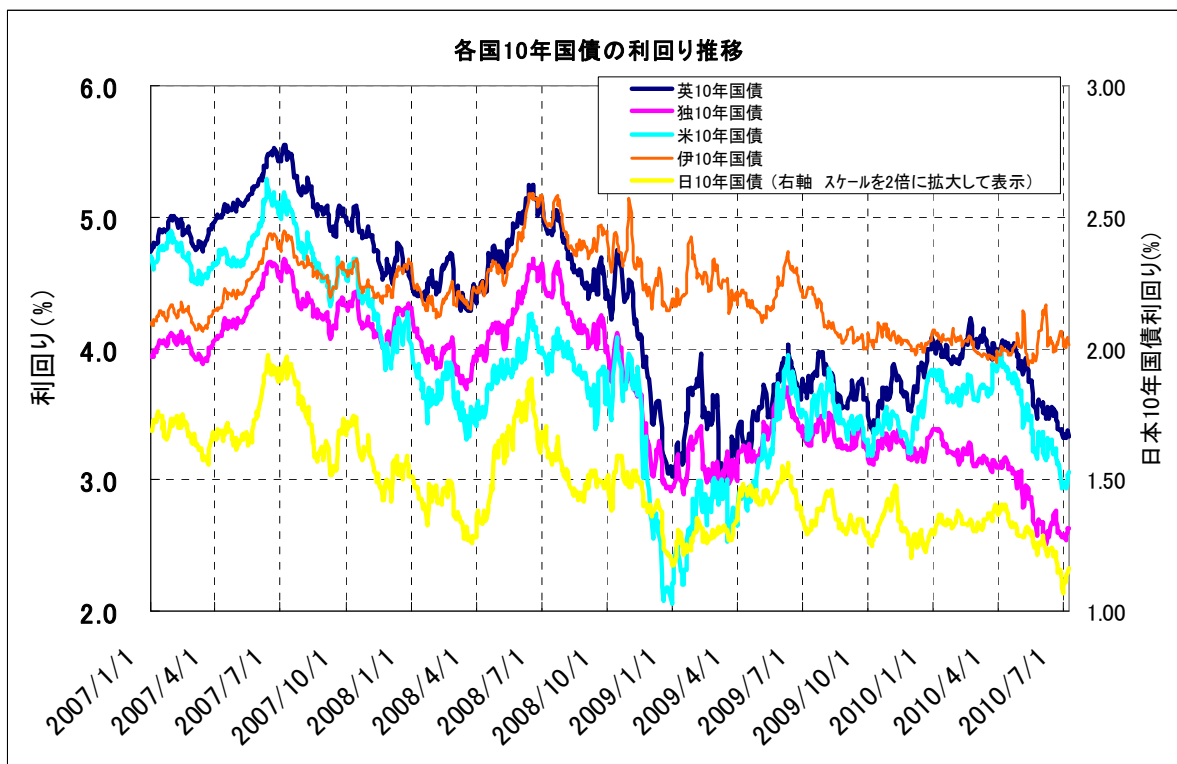


株式市場が反発する中、新興国や資源国への資金流入が鮮明に。ユーロも小幅ながら反発が続く。

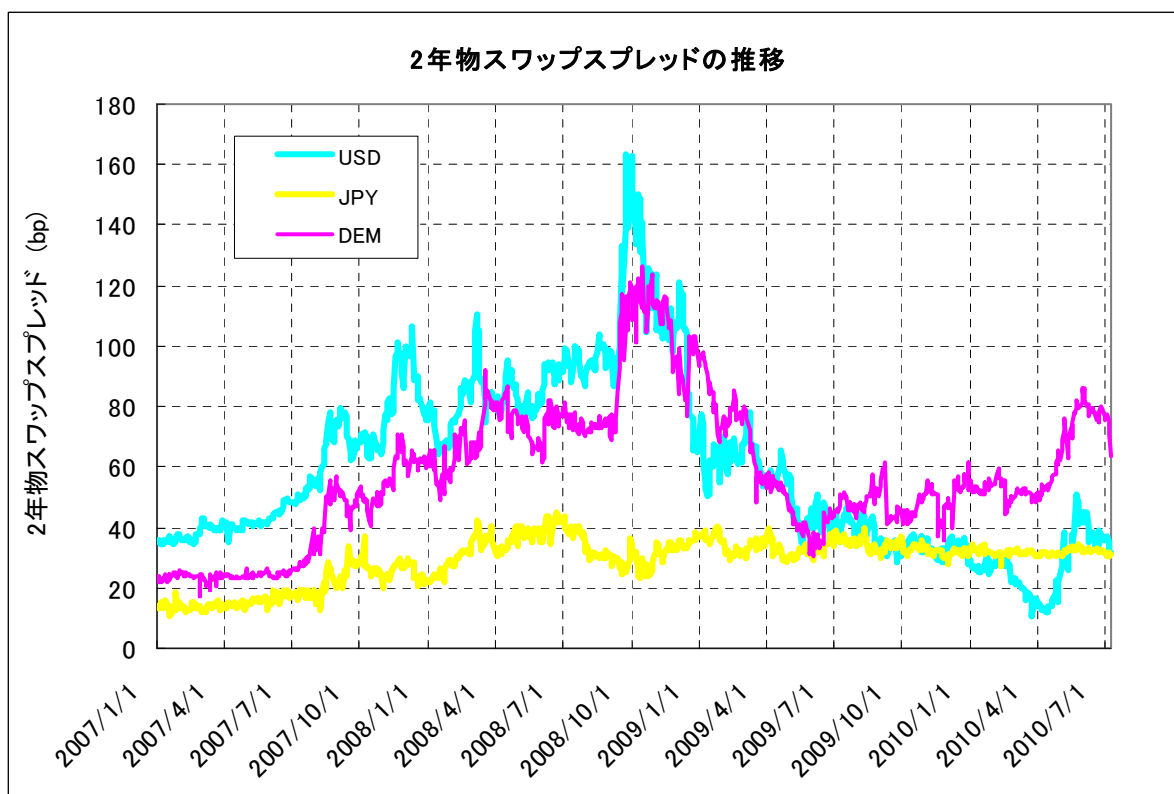
【各国通貨の2008年末からの対ドルでの変化率の推移】



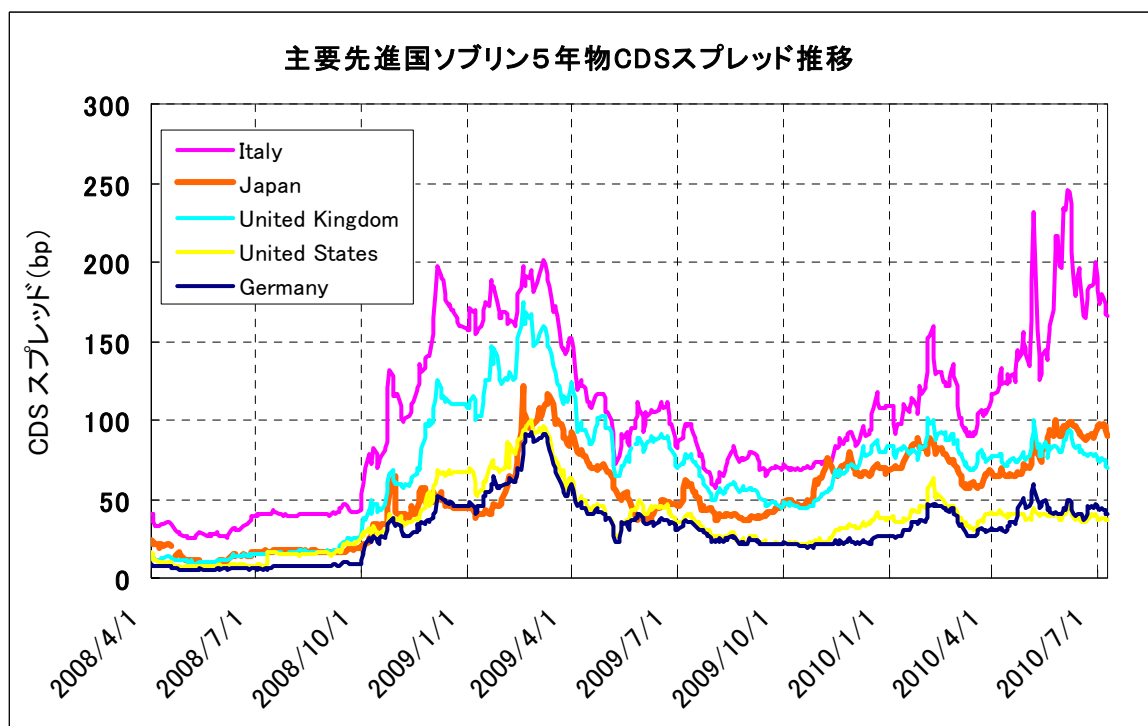
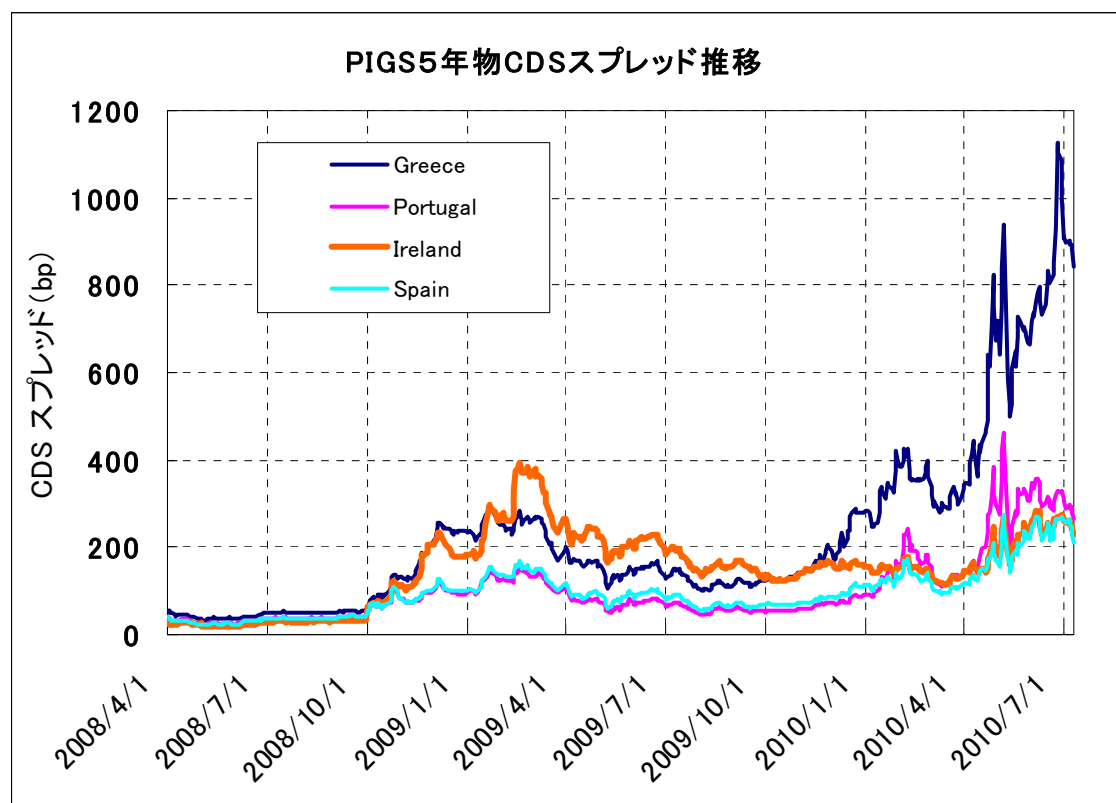
株式市場の反発もあり、主要先進国の国債利回り低下も一服。新興国ではインフレを警戒した利上げが相次いでいるが、先進国では緩和継続期待が根強い。



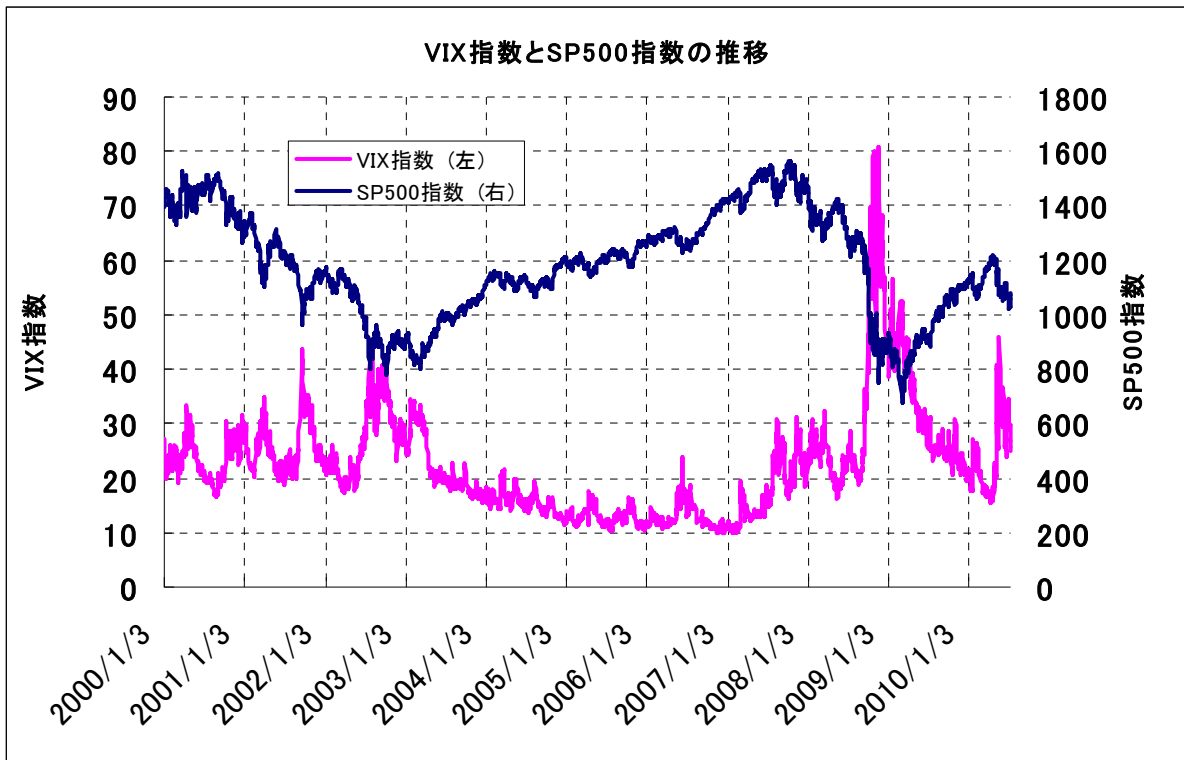
スワップスプレッドは欧州で縮小。



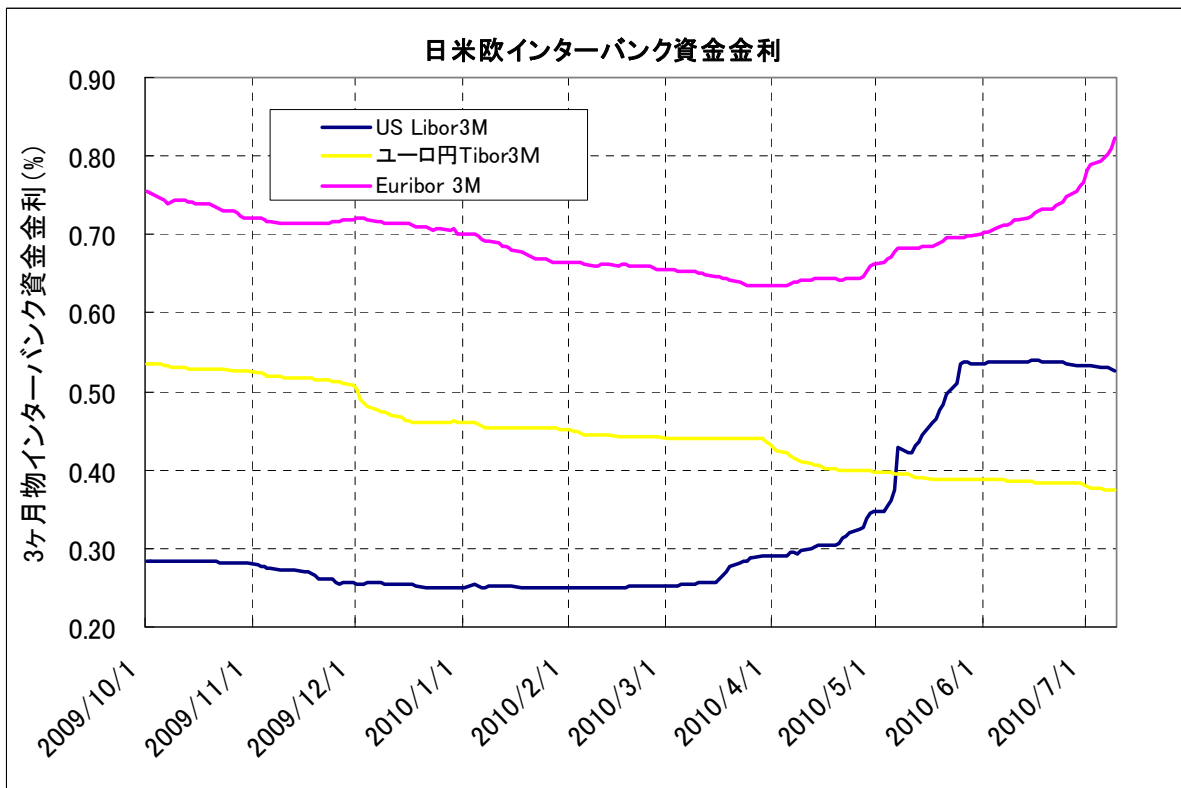
ギリシャの CDS スプレッドは引き続き高水準ながら、その他諸国も含めて全般的に縮小する動きが広がった。



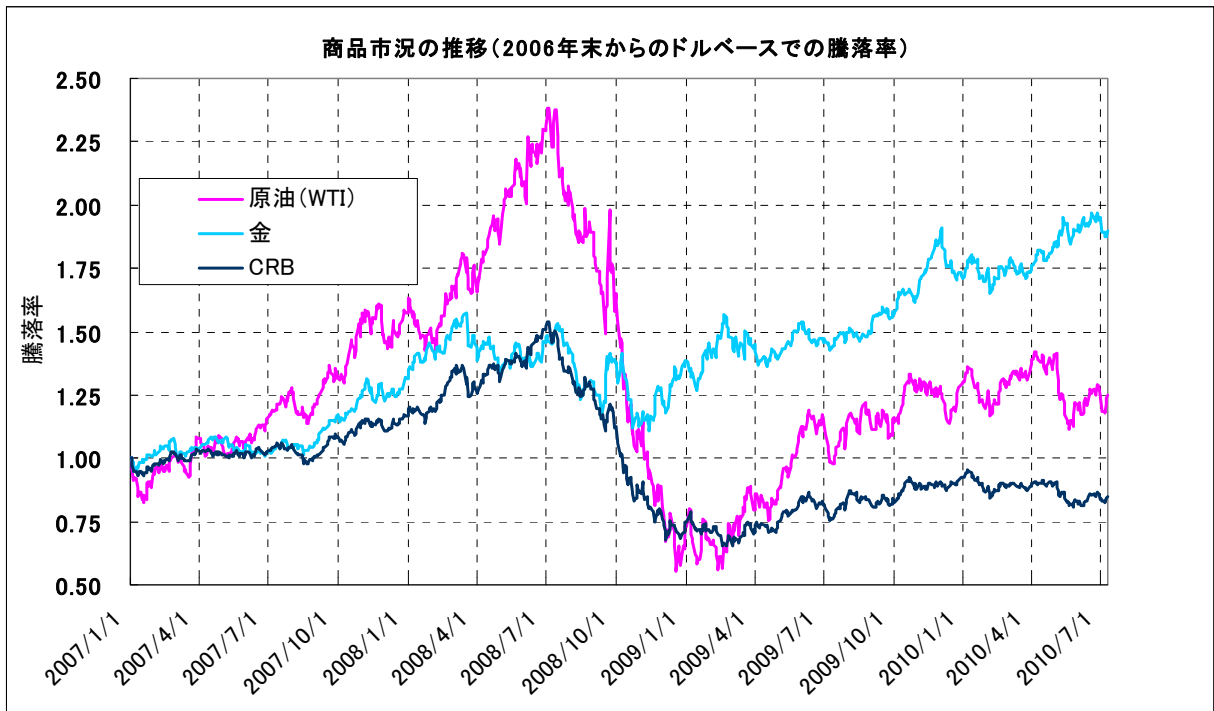
VIX は再び 20 台に低下。



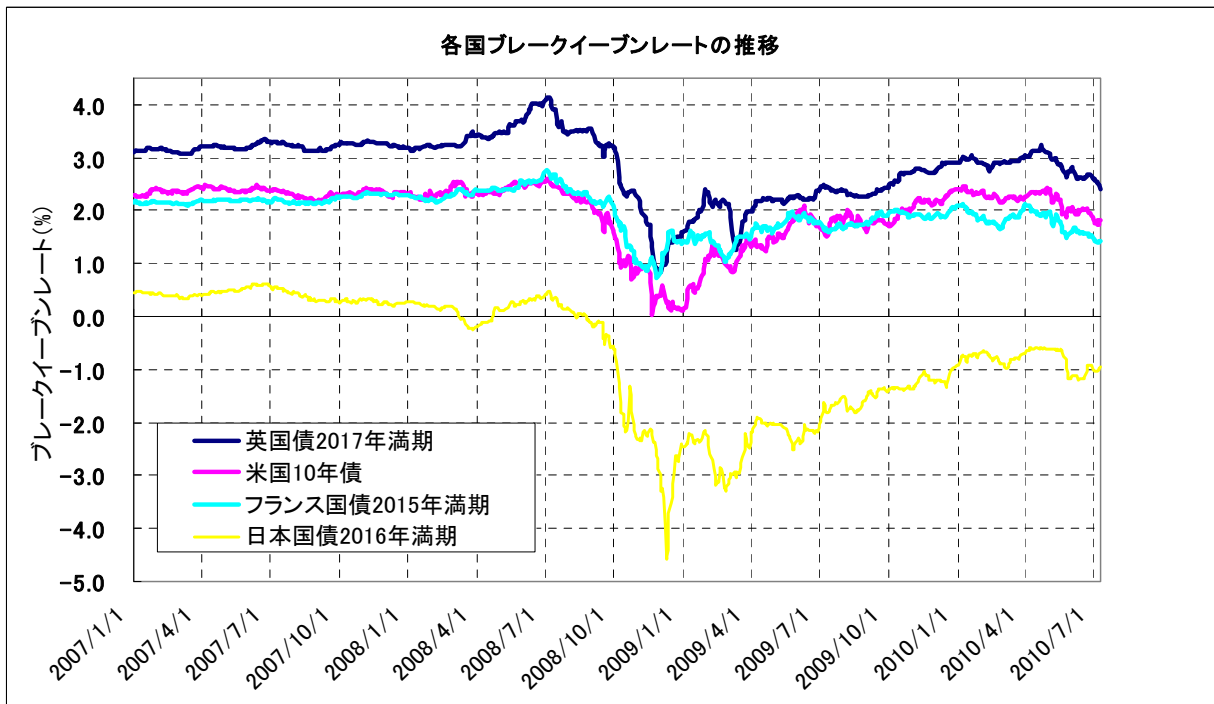
ドル LIBOR の横ばい、ユーロ圏金利の微増傾向が続く。



原油はリバウンド、ゴールドも調整は小幅で終了。



欧米のブレイクイーブンレートは縮小の動きが継続。



(未永)